

ステンレス鋼線トップメーカーの日本精線は、前期の業績は好調だったが、今期は不透明感が強く減収減益を見込んでいる。利光一浩社長に今期の見通しと今後の事業展開を聞いた。（橋川 渉）

――前期（2025年3月期）は増収増益と業績は順調だったか。

「前期は各部門とも好調で、連結経常利益は過去最高（22年3月期45億9900万円）に近い45億8500万円となった。極細線は太陽光発電パネルのスクリーン印刷用が好調。金属繊維は上期が高機能フィルム向け、下期が海外の炭素繊維向けが良かった。中国の半導体関連向けも米国の追加関税発動前の駆け込みとみられる動きがあった。一般

日本精線 今期見通しと事業展開

のステンレス鋼線は23年度に在庫調整を終えた流通の在庫積み増しが上期を中心にあつた」

――今期は減収減益を見込んでいる。

「米国の高関税がどんな影響を与えるのか予想しにくく、鉄鋼や自動車などの直接的な影響よりも景気全体の下振れが悪影響を及ぼしそう。部門別では、極細線は、前期微減。金属繊維は通期では前

極細線細径化で新用途開発

来夏に枚方工場増築、省人・省力化投資も



利光 一浩社長に聞く

前半に中国の太陽光パネル関連を开拓していく。その一つが投資も行い、生産効率の向上を図るとともに、職場環境を改善していきたい」

――CO₂排出量について、30年度に13年度比30%削減、50年度にカーボンニュートラル（CN）を目標としているが。

「国内だけでなく海外の子会社3社も含め目標を達成していきたい。排熱回収の促進や断熱化でエネルギーロスを減らすとともに、更新時に可能なものはガス炉から電気炉に切り替えていく。またCO₂フリー電力の購入も拡大していく」

――現在最小径の9ミリの極細線は、さらなる細径化への取り組みが進んでおり、高効率の太陽光パネルの生産が可能になる。また医療や半導体、再生エネルギーなどサステナブルな成長分野向けの高機能・独自製品の開発に力を入れている」

――働きやすい職場環境づくりや人材面の取り組みは。

期並みと見込んでいるが、今年末辺りから半導体装置関連が立ち上がりそう。それに

「経済産業省と東京証券取引所による『健康経営銘柄2025』に鉄鋼業界で唯一選定された。今後も選定されるよう社員の健康管理を経営的視点で取り組んでいく。また女性の活躍推進として女性活躍推進チームを立ち上げ、そこら出た意見のうちは可能なものは実行している。女性社員の割合が総合職で15%以上、技能職で5%以上となるよう積極的に取り組んでいきたい」

――中国の太陽光パネル関連は浮き沈みが激しいが。

――中計の裏議ベースで77億円強としている設備投資については。

「枚方工場（大阪府枚方市）の建屋に来夏完成予定で2階部分（約3千平方メートル）を増築する。省人化、省力化に向け素の分離・精製は、連続運転したい」

――長期的に見れば伸びる分野なのでしっかり対応していきたい。一方で太陽光パネル部分（約3千平方メートル）を増築する。省人化、省力化に向け素の分離・精製は、連続運転したい」

――枚方工場（大阪府枚方市）の建屋に来夏完成予定で2階部分（約3千平方メートル）を増築する。省人化、省力化に向け素の分離・精製は、連続運転したい」

――枚方工場に設置した小型プラントによるMCH（メチルシクロヘキサン）からの水素の分離・精製は、連続運転したい」

※本記事は鉄鋼新聞社の承諾を得て掲載しており、著作権は鉄鋼新聞社に帰属します。